



伊勢神宮五十鈴川を渡る橋の入り口にて 一条の会小野馨



松浦光修教授と一緒に (皇学館大学、先生の研究室)

平成27年11月14日、「憲法一条の会」設立を報告するため、事務局長増木直美、その他2名を伴い4人で伊勢神宮に参拝しました。10時に大阪出発。12時伊勢神宮着。あいにくの雨でしたが、伊勢神宮のいつもの特別の落ち着き、特別の爽やかさに一時浸りました。

伊勢神宮―皇学館大学・松浦光修教授―岡崎・杉田謙一副代表を訪ねて

ただ、残念なのは五十鈴川にかかる橋の上は中国人で一杯。7割位が中国人でした。雨のこともあり、傘をさして押し合いへし合い。溢れかえっています。もちろん中国人がダメということではありません。伊勢神宮は日本の聖地。我々が最も大事にしているところです。もう少し日本人の参拝者にも配慮し、静かに渡っていただけないでしょうか。さて、午後1時、皇学館大学松浦光修教授を訪ね、教授に面会。今後の会の運営、運動のご教示をいただく。先生のお話は後述。先生から山ほど宿題をもらい、私

日本の歴史学者は、北海道から沖縄までだいたい左翼です。左翼じゃないと大学の先生になれないんです。ですから私はアスファルトの隙間から咲いた雑草みたいに珍しい存在。
いま、皇室に対しマスコミを始め相当、不敬なことがなされているらしいです。妃殿下にとどまらず皇太子殿下攻撃をしている。稚子殿下はけしからんというのは、保守陣営が最初に火をつけたんじゃないかなあ。
要するに「宮中祭祀を疎かにしている」と。その辺を言うから保守陣営が、そうだそうだと言います。そこで、そうじゃないということ竹田恒泰さんが説き、稚子殿下の擁護を始めましたね。私は

松浦先生の「教示」

は目がテン……。
そして、一条の会副代表、岡崎市の杉田氏のもとへ。夕方5時ごろ杉田邸着。氏の仲間6、7名の歓待を受け、各位から日常の活動報告。そして話は皇室問題とは切っても切れない国旗の問題に移り、全国の警察でどの程度祝祭日の国旗が上がっているか調査しようと決定。また、望外の喜びとして、愛知の教育を考える会の柏原文男氏が音頭を取り「一条の会愛知県支部」の設立が決定しました。



下段左より、増木重夫、柏原文男、杉田謙一、小野馨子、園部宣治

憲法一条の会
一条の会 NEWS LETTER
102号 H27-12-20
【発行】 憲法一条の会 代表 小野馨子
http://1-jo.info/index.html
【編集責任者】 MASUKI 情報デスク 増木直美
大阪府豊中市上新田2-6-25-113
TEL 090-3710-4815
FAX 06-6835-0974
http://mid.parfe.jp/mid@jewel.ocn.ne.jp

祝祭日には 国旗を掲げましょう
株式会社 白獅子
ウエブサイト、広告、撮影編集、アニメーション製作。
078-57015621 (神戸)
http://snowlion.co.jp/

その騒動のさなかに、宮中祭祀だからえらいことだと最初思ったけども、宮中祭祀は皇太子殿下の仕事であって稚子殿下の仕事ではありません。
それに皇后陛下は今、きちんとおやりですがそうだったのは最近で、昭和天皇の香淳皇后もそんなに宮中祭祀に寄り添ってらっしゃったわけではない。長い皇室の伝統からすると、そんなことで皇室批判のネタを与えてしまうというのはまずいですし、皇室観というのがそもそも保守陣営はなっていない。存在自体を敬うという姿勢が戦後の民主主義で消えちゃったんです。
保守陣営も戦後民主主義的発想で皇室を理解してきたにすぎない。私が、特に良くないと思っていたのは一つあります。皇室を考える上で徳を仰ぐ事です。「徳」を仰いだら支那です、徳を仰いで王室を

立てるといふのは。両陛下が素晴らしい、それを仰ぐのは結構なんです。支那は「徳のなくなった皇帝は民衆が蜂起し革命を起こして良い」という思想です。それが易姓革命というものになって王朝がころころ変わる。我が国は、徳というもので天皇を支持するのではない。直系のご子孫であるというのが一番大事なんです。男系の子孫であり祭祀をやって祈りを捧げてくださっているこれが天皇です。

例えば多少酒癖等が悪かろうが、そんなものは天皇の資格とはなんの関係もないです。戦後の人はわかっている。ご立派な天皇ばかりを見てきているので、今までと違う人が出てきたらすぐに拒絶反応を起こしてダメだという。間違いです。

戦後の日本で、作法を守って皇室に意見したのは一人。三島由紀夫です。自決したわけですからその覚悟があつてならいいですけど、雑誌で小遣い稼ぎに皇室批判をするのはいかがなものでしょうか。普通の人にして最低限ダメなことを皇室にしてはダメですよ。皇室には何言ってもいいのだからいいです。普通なら名誉毀損で訴えられるようなことを平気でやっている。辻元清美議員なんかは憲法の天皇の条項なくせて言ってますけど憲法改正が盛り上がりつつも変な方向に改正されたらますます困りますよね。

今の政治家、言論人知識人の皇室理解ってのは本当にひどいものです。憲法一条には何が書いてあるでしょう？ という問いに誰も答えられない。

それにも仕掛けがある。60年安保の時から中国共産党の工作が日教組に入っているんですよ。「皇室と神社に対する敬意を日本人から失わせない限り革命は成就しない」と。それが全国で今も生きてい

ると思います。小中高大通じて一度も皇室に大して肯定的な情報を与えられてこなかったってのはそういうシステムがまだ生きて活動しているということでしょう。ってなことを私は学生に言うんですけどもそしたら、心ある学生が私に「先生、神職課程を履修する学生が、『天皇に要るのかよ』とか、『税金の無駄遣いだよ』って話してましたよ」と情報をくれた。

神社界もあやしい。ニュースも前にひどいことがありますね。雅子殿下がお出かけになった時に何処かの、男が罵って。例えば、身内が病気になる時に攻撃するの。いい医者を見つけようとしてたり祈ったりするそれが日本人。病気になるたらけしからん、出て行けなんてそんなのは家族でしょうか。

皇學館大学で、日本という国について教える必須科目というのを作って、数年くらい続いたんですけど、長くは続きませんでした。西郷さんも吉田松陰も戦後の教育では悪い描かれ方をしている。全部、根幹のところをやらせてるんです。神話も幕末の志士もやられて。楠木正成なんかもう名前も聞いたことがない。日本人、士族が潰そうとしたものが全部潰れて、70年経ちましたので一からやり直さってのは相当大変なことです。

※書籍の解説
「日本は天皇の祈りに守られている」
私の、皇室論の一種集大成なのがこの本です。皇室の本質を知ることによって、遷宮のことを書かせていただきました。

陛下というのはそもそもどのような存在なのかということ、「祈り」という観点で見えてきました。古事記、日本書紀のときの世界を知っておかないと意味がわからなくなります。古事記、日本書紀も戦後の学校教育ですっかり破壊され

てしまったようです。破壊したのは単なる工の圧力というわけじゃなくて、近代の歴史学、神話学といったのを、学者が明治以来破壊活動を続けてきたのです。

古事記、日本書紀を肯定的に教えられる先生は、おそらく日本にもういないのではないのでしょうか。文献の解釈はできるけど、その中に込められた信仰を語れる人はいないと思います。皇學館大学でも、読み方を教えているけれどもそこに込められた信仰は語っている人はいないです。

何が神で、何が神でないかとか、ヤマタノオロチの退治にしても皇學館大学でも教えているのは「出雲の川の氾濫を象徴した物語」。川が人を飲み込んで、治水事業を行ってそこに鉄分があつて、砂鉄を精錬して剣にしたのが草薙の剣だというこという教え方をするわけです。

私自身そんな教え方をされてきたんですけども根本的におかしいと感じました。神話という言い方そのものが間違っている。そうじゃなくて神代(かみよ)の物語で、作り話ではなく生きています。日本人はそれにどう接するべきか。神代の物語を踏まえないと皇室はわからない。日本の特色、日本という国がわからないのです。

◎先生のお話しメモを基に、一条の会文責でまとめました。

弊会副代表 杉田謙一氏の活動

「国旗掲揚推進愛知の会」は、一条の会副代表の杉田謙一氏が中心となって活動している団体です。有志が集い祝祭日に国旗を掲げるという活動を行っています。この活動を行っている方々と交流させていただき、日の丸をもっともっと人目に触れさせようというの、世間に対してはもちろん、愛国陣営の中でも大きな

メリットがある運動だとあらためて考えさせられました。

まずひとつに、旗作りは「誰でも参加できる」というポイントです。日の丸の旗はとも美品があり、青空に映える旗は一本でも美しいのですが、商店街に小さな日の丸がすりと並んだ様子は、可愛らしくもあり鮮やかで何とも清々しいものです。

この旗を用意するのは愛知県の有志の皆さんですが、旗作りの活動は老若男女参加でき、手作業しながら会話も弾むというコミュニケーションの点で優れています。

また、国旗を作って掲げるという活動には、憲法解釈その他の難しい予備知識はいっさい必要ありません。授業のように予習もいりませんし、その場に出掛けていけば日の丸の美しさをあらためて感じる事ができます。知識の豊富な先輩方から話を聞くこともできます。愛国活動の入門編としてもうってつけだと思います。

愛国活動というと、多くの場合なにかと意見割れが生じやすくぶつかり合いがちですが、「日の丸を作って掲げる」という行動に異論を唱える人は見たことがありません。みんな仲良く活動できる、日の丸のもとに団結できるというのは素晴らしいですね。

最近では祝祭日に、公共施設で国旗を掲げるところと無いところがあります。聞くところによると、ある時間帯になるとその駐在所では旗を仕舞ってしまうらしいのです。「盗まれるから」という笑話も聞きました。

全国の警察でどの程度祝祭日の国旗が掲げられているか調査しよう、という案が出るなど、多くのアドバイスや課題を得た大変実りある時間でした。

設立にあたり「101号の続き」

一条の会 代表 小野馨子

マスコミの偏向報道や、反日国家のプロパガンダにより日本人のアイデンティティが侵略されているという書き込みを目にしたいわゆる「ノンポリ」層が、政治は他人事ではないという当たり前の事に気付き、積極的に情報を求めるようになったのは自然な流れだと思えます。

最も早くから登場した「ブログ」という形式の場合、ツイッターと異なり意見の相互発信になるケースが圧倒的に少ない。例えばある議員のブログコメント欄に意見したとして、返信はそれほど来ないので本人の反応はわかりづらい。情報源が一方通行で限られていた頃だったからこそ自分には何が出来るだろうと必死に考え積極的に動くボランティア精神溢れる人の割合が高かったのだと思えます。将来への危機感の他に活動へのやる気を加速させたのは、周囲との政治に関する意見共有の困難による心細さを抱える中、ネットの世界で「ここだけの大事な話」で誰かとつながれるという心強さであろう。まるで暗闇で手を取り合うような思い知恵を出し合える喜びを感じられた事も大きかったのではないのでしょうか。

先日、私が何気なくツイッターを覗いた所、忘れもしないあのMでの、東宮妃殿下バッシングのやり取りが再現されているのを目にしました。元ツイッターの早すぎるやりとりが面倒で積極的に使用していなかったのだが、たまたま用事もなく暇だったので会話に割り込むことにしました。呆れたことにバッシンググループの言い分は「あのような人間が皇后になつては困るから情報を拡散している」というもので、徒党を組んでの情報拡散と、敵だと認定した者への人格攻撃を執拗に行っていました。バッシング

を止めるよう説得を試みる者も見られましたが、粘り強く注意を喚起し続ける人はそれほどいません。みな呆れてしまっていたのでしょうか。それに對し批判派は述べた0人以上、主に20人程度が発言し、残りは賛同のリツイートを行って

いるようでした。それらのアカウントが提示する雅子殿下の醜聞の出所は今回も例の偽装保守工作員と思われるブログ「BB」と「Bluefox」でした。「ご成婚パレードで創価信者が三色旗を振っている」等の写真を見せつつ「創価学会員の雅子殿下は皇后に相応しくない」と叫んでいました。これに至っては呆れてものが言えない。信者が旗を振るのはいわば、地方にテレビ取材が来たときに嬉しそうにくサインをして映り込もうとする住民の行動と同じではないのでしょうか。ここでも状況はMと同じで、東宮妃殿下批判の明確な根拠を責任を持って示す者は皆無でした。筆者らの「両殿下が即位された後はどうする、やはり反天皇を貫くつもりなのか。それでは反天運と変わりが無いが？」等の質問で返答に窮すると、皇室に関する蘊蓄等、議論に直接関係のない話を始め、大勢で盛り上げ話をそらす。調べればわかるのに筆者を「創価信者」等事実無根のレッテル貼りし、「こいつは創価の工作員だから注意しろ」と大人数で情報拡散するのです。「雅子(大抵呼び捨てで書かれている)の血は汚れる」と言い、何故かそのついでに自分の血筋自慢を始めるには閉口しました。このような、論点ずらしと人格攻撃によるいたちごっこが延々と続いているのです。東宮妃殿下擁護派の数が少ないのは、うんざりして対話を諦めてしまっただけと推察できました。

保守派だと自称しつつ、愛国者を自認する日本人の嫌うアイコンを駆使し、東宮妃殿下を貶める様子を「グロテスク」と言わずしてどう表現して良いのか。ま

どろっこしく感じたので次のように呼びかけてみました。

「皆さんは、日本の為に大事な情報を広めようと拡散しているのだと思うけど、もっと効果的に広めたいでしょうか。くに出てきてはどうですか。心当りが無いわけではない。場をセッティングするから世間に向けて分析や意見を語ればいかが。国の未来がかかっていると言っなら、自らの身は顧みずの精神で何でも出来るはず。」

すると間もなく、「言論弾圧は反対だぞ!」という不思議な返答が飛んできた。中でも一番可笑しな返信は「お前が出る」「お前の住所と本名をここに書け」である。

東宮妃殿下擁護派は「論戦の場を設けようって提案だぞ?どう解釈すりや言論弾圧なんだ、バカじゃねえか」と呟いていた。批判派は東宮妃殿下擁護派が如何に皇室に対して無知であるかを日々喧伝するのだが基本的な知識や事実を歪曲して広めているのは他でもない彼らでした。例えば、天皇后陛下が祭祀を行うかのように触れ回り、体調不良(さぼっている)とまで言う輩もいる)の雅子殿下には将来無理だと力説していました。しかし宮中祭祀というのは祭り主である天皇一人で完結する物であり、皇后の欠席で不完全なものになることはありません。東宮妃殿下批判グループが、他には何を話題にしているかを見ると、やはり「BB」等の工作員ブログ同様「嫌韓」「嫌中」「反創価」で占められていた。そこで、「創価と皇室両方が嫌い」というと、貴方はひょっとして共産党か?そなたとすれば全て辻褃があう」と尋ねると猛反発し「ア力は嫌いだ。自分は反日皇太子妃を叩いているだけ、皇室の将来を思えばこそだ」という支離滅裂な返答が来る。内容に責任が持てないからこそ彼らは匿名でブログやツイッターに書くわけだが、

改めてその適当さに呆然としました。

こういふ人たちが反天運の工作員ではなく、さほど書いた保守系M「メンバ」と同様、騙されているだけだとしたら立ち止まって冷静に考えて欲しい。そこで私は、

「東宮妃殿下についての根も葉もない下劣な噂自体は皇位継承に何の影響も及ぼさないが、将来この調子で天皇皇后両陛下を否定する世論が高まるとそれこそ反日左翼の悲願達成。こういう危険性について東宮バッシングを止めない自称保守はどう考えるのか。そうなった時どういうアクションを起こすかが見物」という文章が定期的に発信されるよう設定した「工作員」の説得を試みるのは消耗ではないし、直接は議論せずこういふ文章が多く部の外者の目にとまるようにする方がプラスに働くかもしれないと考えたのです。

バッシンググループの正体は当面の問題ではありませんが、「愛国者」として活動している者の中にそれらの主張を信じ込む者が出てくるのが問題でした。いわゆる大多数のノンポリの日本国民に如何に主張を理解してもらい賛同を得るかが要であるのに背離反射的に「創価学会」等特定のキーワードを目にして逆上し、情報の精査も無しに信じ込んで暴走すると、結果として信用や味方を失い、目標を破壊してしまうのです。在特会の主張には、理路整然としたものもあるにもかかわらず大衆に受け入れられないのは、日頃のプレゼンテーションの方法に問題があるからです。日本人としての良識が感じられなければ大衆の賛同は得られない。良識的バランス感覚が麻痺してしまっているように見受けられる例はフェイスブックでも見られました。昨年このことが安部首相のフェイスブックで、精神科医を自称する人物が「韓国人は遺伝子レベルで人格障害を抱えた民族で対

話の成り立つ相手ではない。国益のためには税金を使っても全員本国へ送り返すべき」とコメントを書き込んだ。常識で考えて精神科医がこんなことを書くことはあり得ないが、このコメントには情けないことに、賛同を表す「いいね！」がいくつかけられていました。

「東京に住んでいると、年々頭の中が左傾化し共産党寄りになる。蓮舂や山本太郎が皆当選していることからして明らかだ」という論に賛同する者はいるだろうか。それでもこれと同クオリティの自称医者コメントが左翼工作員ブログ「BB」等のコメント欄にコピペされ、賛同コメントまで書き込まれているのです。マスメディアや左派のウェブサイトに置いていわゆる「中韓へのヘイトスピーチ」をする団体と、安倍政権の慰安婦論争等を巡る政策を絡めた印象操作がたびたび行われているが、こういうコメントがネット上で公開され多くの目に触れることを考えると、転載することで安倍首相を「レイシスト」として批判する為の伏線を敷くことに協力、成功しているといえるのではないのでしょうか。

かつてマスコミの偏向報道に騙されていたことを憤ったはずのネット右翼が、嘘だらけのネットニュースサイトや保守を騙る「BB」「Bluefox」に騙される様子は、マスコミや反日左翼にしてみれば都合の良い与太話をすぐに信じる単純バカ集団である」という格好の宣伝材料になります。だからこそ、情報を拡散したり啓蒙する者には正確性に責任を持つ姿勢が求められる。そして、情報を受け取る側がマナーとして最低限しなければならぬことは「裏の取れた情報」か、「発信者の基本知識に間違いが無いか」を確認することだ。今度はネットだから安心だ、という先入観で鵜呑みにしてはテレビ・新聞からネットへと対象が変わっただけで、偏った情報に踊らされている点は何

ら変わりはないのです。

SNSでは同じ思想の者同士が群れて議論を交わすケースが多いが、同好の土が集まっていると外から自分達はどう分析されているかはわかりにくい。

私は先日、左翼団体で論じられている「ネット右翼の動向と対策」についてうかがう機会を得ました。京都朝鮮学校公園占用抗議事件の、所謂ヘイトスピーチを巡る訴訟は記憶に新しいが弁護士会でも、左派系から「ヘイトスピーチの法規制」とセットで「ネット規制」が提案され、議論が続いている状況があるといえます。また最近では、弁護士会の人権擁護委員会等に寄せられる相談内容の中に日教組の教師から「日本軍の犯罪性や残酷性を一生懸命教室で教えようとしているのだがうまくいかない」「子供たちがネット情報をネタに、それは嘘だ」といちいち反論して教育にならない」という苦情が見られるようになったとのことだ。このように、反日左翼の力が強い法曹界や教育界で「ネット右翼」の脅威を意識し始め、対策を真剣に論じ始めているという現状があります。

「左翼連中の中には、工作活動が三度の飯より好きな連中が沢山います。国連に出かけていたり、アメリカの平和主義サークルに、山のような文書を作成して微笑みを携えて訴えかけるのです。これは表舞台。保守派に潜入して、情報を集めて報告会を開いて情報を共有して批判方法を検討しています。いずれも有能で実務能力に長けた連中です。」
「ネット右翼」を脅威だと認識した左翼活動家がどういう攻勢に出ているかは頭の隅に留めておくことが必要だ。日本において「言論の自由」は憲法で保障されており、メディアへの信用を取り戻す為に「ガセネタが多いから規制する」というのはあまりにも乱暴で現実味がない。しかしヘイトスピーチについては民主党

が規制法案を国会に提出しようとしているという報道があった。前述の現状をふまえると規制実現のためのロビー活動が活発に行われていることは容易に想像がつく。「ヘイトスピーチ」の源泉であるネットウヨサイトは「CN」等ガセネタニュースも多く有害である」として、青少年の閲覧制限を提案するということが現実にならないとも限らない。ネット上で起っているのは情報戦争であり、保守を陥れようとする輩だと思われるような、怪しいものがまぎれていけば警戒するのは当然のことです。

皇室や政権等、あるテーマについて論評が様々になされることは言論の自由の範疇であり尊重されるべきだが、一部ネット右翼が、皇太子妃殿下を悪く見せようという印象操作の為に捏造や事実誤認を拡散させるのは別次元の問題です。目的の為ならば手段を選ばないという左翼の行動パターンそのものといってもよいでしょう。

歴史認識問題における南京大虐殺や慰安婦強制連行など、今まで反日国家や反日左翼の専売特許であった捏造・与太話の流布は、裁判や教科書改善運動等地道な活動によって覆され、結果的に日教組やマスコミの信用を失墜させています。

「すぐばれるような嘘をつくなんで左翼はバカだよな」というコメントを保守派の間で目にするのですが、皇太子妃殿下関連の捏造情報信じ、皇室毀損発言を展開するようではこの自称保守もバカ左翼と同類です。ツイッターの中には「稚子殿下の知り合いから聞いた」と言ってお上品な噂話をまき散らす驚くべき恥知らずさえいました。これこそ「私が証拠だ」という朝鮮人の自称慰安婦と同じメソッドです。今ある「事実」は東宮妃殿下の心身の不調で、その「事実」についてカルトの陰謀等という憶測を巡らせ拡散することは何の意味も成さないと

ころか犯罪的でもありません。

保守系人士の間では、無意識にSNS上で左翼工作員となっている者の出現を「保守の劣化」と認識しているようですが、反日左翼の「反天連」に利用されるような人たちが保守の「劣化コピー」と呼ぶにふさわしい。他を捨てても護らねばならないものが何なのかを抜け落ちていくのです。ツイッターではしばしば「駆け出しの保守です」という自己紹介が見られますが、不思議な言葉です。保守というのは修行が要求されるような難しいものではないからです。

無論、政治思想の場に持ち込まれた際「保守」はアイコンを以って表現され「天皇」「靖國神社」「反共産主義」、左派ならば「憲法9条」「反原発」等が挙げられます。いわゆるネット右翼はまるで、「このポイントさえ抑えれば」と定期考査で計算する学生のように、前述のキーワードを絡めた切り貼りの書き込みをして、全てを一つの線をつなげられない主張を展開するのが常です。「靖國神社護持」「中韓の侵略に警戒」という主張は皇室を戴くこの国をいかに存続させるか、という議論から自然発生するの、逆の順序で付け焼き刃のキーワードを用い「祝日に日の丸を掲げる私」「日本人の生活を脅かす不逞外国人を糾弾する私」になろうとする。動機は不明だが「愛国者」という肩書きを、自らのアイデンティティとして取り入れるという自分探しの薄っぺらさゆえに、保守勢力が創価学会を嫌っていることを利用した工作員に乗せられやすいのではないのでしょうか。「BB」等サヨク工作員がカムフラージュに記事に紛れさせた嫌韓記事や保守系議員賛美の文章を見て、「こんなに韓国嫌いって書いてるんだもの、この人は味方に違いない」などと思ひ込むようです。プロガーが読み手はどこに連れて行くかとしているのかの見極めができずに反日左翼に加勢し

ている様は、さしづめ「保守」の「コスプレ」とでも呼ぶべき浅はかさを感じているように思えて興味深い。過剰に「皇室を想う」をアピールし「雅子殿下は皇后に相應しくない」と叫ぶ「ネット右翼」が純粋に湧き上がる皇室への敬意を持つ一般の日本人の感覚と剥離している様は非常に見苦しく滑稽でもあります。

二十年以上もの歴史をくぐり抜け存続してきた、皇室への畏敬の念は左翼の発想や中韓の文化に見られる「ブルジョワ」「儒教的敬意」のようなものではありません。私が残念に思うことは「天皇は日本国民の象徴」という言葉が、教育の場で機械的に暗記させられるだけで、その意味を説明される機会が殆ど無いということです。改めて確認しておきたいのですが天皇の権威とは、愚かでない不完全な存在である人間の世界で、この日本という国に古代から変わらぬ万世一系で続いている奇跡への驚嘆であり、その存在を今のこの時代に戴ける喜びから生まれるものなのです。

即ち、保守派日本人の振る舞いとは、歴史を貫いて存続してきた伝統に対する謙虚さと、この国に生まれた自らを喜ぶという姿勢であるはずなのです。「秋篠宮同妃両殿下に譲位を」「雅子皇后の是非を問う」という主張は傲慢の極みであり、国民の意思で皇族をコントロールしようというイデオロギーの「皇太子同妃両殿下バッシンググループ」が我が国の伝統に誇りを持ってない、あるいは二十年の歴史よりも自分が偉いという思想の持ち主であるように見えてなりません。これら「BB」「Brexit」等ブログや皇太子妃殿下を罵倒するツイッターユーザーについては、反日左翼による謀略サンプルとして注視しておくことが重要なのです。

本稿では、SNSの投稿における謀略工作を取り上げさせて頂きましたが、最後にこれらにおける情報の錯綜について指摘しておきたいと思えます。ツイッターとブログ、いずれもスマホで読めるお手軽な言論です。文字数が少ないので画像とセットで視覚に強烈に訴える点、またまった論文を読むより簡単に吸収できる点については、速さと読みやすさ故の正確な情報の早飲み込みに注意する事が必要になります。知人がツイッターを「本の宣伝に良いね」と言っていました。この様に書籍や論文を読むきっかけのツールであるのが望ましいと思えます。

「覚醒」という単語は、自虐史観からの目覚めという意味で保守派が頻用し、エセ保守ブログ「BBの覚醒日記」のタイトルにも採り入られています。そのブログの信奉者については例外であるというのが痛々しく思えます。

真贋不明で活動に影響を及ぼすようなネット情報に出会った時には第一次資料にあたり、疑問点や矛盾を精査することが肝要になります。「マスコミ洗脳から目覚めた我々がカルトから皇室を救う!」とのたまう集団の、東宮妃殿下不信の原因が左翼のマスコミ的作戦にあるのだからなんとも皮肉な話です。

小野代表と中山重行北山の神主の迷問答!?

神へのお願いの作法

週刊誌等で見られるようにマスコミの常套テクニクという「陰謀論等で危機感を煽る」「人の不幸は蜜の味」の心理をくすぐる」等が挙げられます。左翼工作員がネット右翼相手にそれをなぞる場合は「中韓」「創価学会」を絡めるだけで良いのです。今後も様々な手を使い情報戦を仕掛けてくるのは確実ですが、皇室に関してはその前提知識が欠けてきえないなければ工作員の姿は自然と見えてきます。言うまでもないが天皇陛下は国民の安寧、五穀豊穡を祈る祭祀王であり、国民は古来よりその慈愛を享受してきました。権力闘争の好きな左翼は「偉い」という言葉を充てるであろうがこれは間違いで、皇室は「尊い」のです。また、左翼がいれば「死んだ人間には人権がない」(従って亡くなった被害者より生きて

小野代表

友人と話していて、「神社では、個人的なお願いをしたらあかんのよね」という話になり、西行法師の話になりました。「何事のおはしますかはしらねどもかたじけなきになみたはねな」

宮司、答えて頂く

現在の神社信仰の原点は「困った時の神頼み」でしょう。神道には小難しい教義はありません。「神社では、個人的なお願いをしたらあかんのよね」よく聞く言葉ですが、こんな事は何処かの宗教家面した奴が言った言葉でしょう。これから言えば誰でも神様には「天下国家」の願い事しか出来ない事になってしまします。対人関係においていきなり自分の願いだけを押し付けたら誰でも不愉快。神様も人も気持ちとは同じだと言つ事が判つてないのです。まず神様に日頃の感謝をして、自分の願い(覚悟)をお願ひする事が順序です。私は個人として神社にお詣りした時は「被えたまえ、清めたまえ、元気に生かして頂きましてありがとうございます。世のため人のためにご奉仕いたします」と心の中で唱えています。日頃の感謝と願いで充分と思えます。

昔から緊急時の個人的な願ひ事の方法に「お百度参り」があります。毎日のお参りでは追っ付かない差し迫った祈願に本殿のまわりを1度まわりお願いをし、2度廻って同じ事をお願いする。連続百回もお願ひされると神様も根負けして願ひを叶えて下さると言う。これなどは究極の民間信仰でしょう。「神人和楽」と言う言葉もあります。日本の神様は恐ろしい神ではありません。祭りの原点もこの「神人和楽」です。何も難しく考える事ありません。

活動報告・情報収集

仲代達矢氏への公開質問状

去る11月3日、皇居にて、文化勲章授式が開かれました。この式典で不参加だった俳優の仲代達矢氏は「病気なんだろうかと思ったら舞台公演が重なっていったため欠席だとのこと。」

私は、仲代達矢氏は掛け値無しに素晴らしい役者だと思えますし、氏が、我が国を代表する名優のひとつであることは疑いない事実です。個人的には、「金閣寺」を映画化した映画「炎上」の、脚が不自由なデモニーシシユな学生役のインパクトが強烈に印象に残っています。

しかしながら、弊会顧問にもこの度の態度に疑問を感じる方は多く、当然ながら不敬行為と功績は分けて考えるべきです。公開質問状を送付しました。文化勲章受章者の中で仲代達矢氏は、最も一般に馴染みの深い人物であり、芸能人は大人から子供まで、注目的であり憧れの存在です。

日本を代表する文化人であると認められ勲章を賜っているのに、日本の象徴であらせられる天皇陛下から直接賜る機会を放棄するのはいかがなものでしょうか。氏の行為を見て、「ああ、あれは許される行為なんだ。」

天皇陛下がお出ましの式典は出席必須ではないんだ」と勘違いする子供が出てくる。大人も同様で、例えば欠席するという行為を「異端でかっこいい。観客を優先させるのは役者魂だ」と、思っている人は少なくないかもしれません。

氏の行為は恥ずべきものだとということであらためて確認し、今後繰り返されることのないよう、質問状を送付しました。

平成27年11月5日

無名塾 仲代達矢様

憲法一条の会 代表 小野馨子

謹啓

突然お手紙を差し上げます。ご無礼をお許しください。私達は皇室問題を研究、情報発信している「憲法一条の会(代表小野馨子)」と申します。活動趣旨は「皇室への不敬を許さない」という国民の声をアピールし、同時に憲法一条に関する議論をおおいに盛り上げることで、改めて世間に皇室の尊さを広く啓蒙するといふものです。

先ずは、文化勲章受章、真におめでとございます。仲代様の長年の活動が高く評価されたものとして、ファンの一人として心よりお喜び申し上げます。

さて、それはそうとしまして、先日3日、皇居において文化勲章の親授式が開かれました。報道で知ったのですが、仲代様は勲章を授与されたにも関わらず、この式典を欠席されました。欠席の理由は「6年前から決まっていた舞台公演中のため」とのこと。しかし、天皇陛下から直接勲章をいただけるという、日本人としてこの上ない名誉である親授式に欠席されたことは到底納得できません。

観客への配慮を踏まえ、公演に穴を開けぬよう日程や時間を調整することはできなかつたのでしょうか。役者は「親の死に目にも会えない」と言いますが、まったく重みが違うと思います。

舞台公演は大切な文化的活動ではあることは重々承知していますが、我が国において、どのような用事よりも、国の象徴であらせられる天皇陛下から直接、文化勲章を賜るといふ名誉ある式典への出席は、何よりも最優先させなければならぬことには言つてもないことと思えます。親授式出席のための公演の日程、時間変更等があつても、観客は皆、喜んで理解を示すのではないのでしょうか。勲

章を賜りつつ、天皇陛下がお出ましになる式典に欠席したということは、日本国憲法において国の象徴と定められた天皇陛下および皇室の伝統をあまりにも軽視したものではないか、と言わざるを得ません。遺憾の極みであります。仲代様のお考えをお伺い出来れば幸甚に存じます。返信用切手を同封しておりますので、2週間程度で書面にてよろしくお願ひ申し上げます。なお、仲代様のご所見は公開しますので申し添えます。

11月28日現在回答無し

NHKに公開質問状

平成27年11月4日

・ ・ ・ ・ 挨拶等略

昨今は一般人による不敬表現、とりわけ皇后陛下や皇太子妃雅子殿下への誹謗中傷が以前にもましてひどく、これは看過できないと考えています。これに関連し、日頃、貴社の報道における、日本語の使用について気になっておりペンを取りました。

皇室についての報道で、貴社は特に皇室の方々を本来の「殿下」という敬称でなく「さま」でお呼びしています。私達はこれに非常に違和感を覚えます。また、天皇「さま」とはお呼びしないのに「皇太后さま」「皇太子さま」「雅子さま」等様付けする方としない方がありますが、これは何らかの日本語の基準に則ったものなのでしょう。皇族に対する尊称は皇室典範23条で定められており、単なる「敬語」の問題ではありません。

皇室典範に罰則規定はありませんが、貴社は法令遵守(コンプライアンス)について、どのような見解をお持ちなのでしょう。報道において敬称を使用する

方針についてご回答を頂きたく存じます。

【NHKからの返信】

11月17日

・ ・ ・ ・ 挨拶等略

NHKでは、皇室については、敬称や敬語を使用し、敬意を払った報道をしています。また、視聴者の方々にわかりやすいよう、できる限り、平易で簡潔な表現に努めています。

そつした考えのもと、「陛下」という呼称については、天皇陛下個人と、ご夫妻の場合(天皇皇后両陛下)のみ使用しています。その他の皇族方については、皇后さま、皇太子ご夫妻のように「さま」「ご夫妻」「ご一家」という敬称を使用しています。なお、一般敬称の「様」とは異なるため、字幕では「さま」とひらがな表記にしています。

敬語の使用にあたっては、一文の中では重複を避けるようにしています。敬語も敬称も、耳から入るメディアの特性を考慮し、違和感のない表現を心がけています。

朝日新聞との書簡巷間

朝日新聞からの回答 その後、10月10日以降回答無し。そこで追いかけて

・ ・ ・ ・ 挨拶等略

先日、貴社にお送りしました公開質問状で以下の2点をお伺いいたしました。未だに回答を頂いておりません。

1、朝日新聞が言う「過剰な敬語」とは誰が判断するのか

2、天皇及び皇族の敬称は日本国憲法中の皇室典範の第23条で定められているが、朝日新聞は法令遵守(コンプライアンス)をどのように考えるのか。

朝日新聞社は言論7頁1段目末尾に↓

参加者各位からの情報

北海道札幌市 北田徹氏から
ZINへの抗議

略・・・

皇室への不敬風潮に対する皆さまの憤りには、小生も全く同じ思ひであります。皇室に係る不敬言動については、その程度は年々増悪の一途であり、もはや「言論の自由」と能天気なことを言っている時期ではありません。

殊に現在蔓延してある、東宮殿下・同妃殿下への誹謗中傷には強い悪意が感ぜられ、かつて皇后陛下へ浴びせられた誹謗中傷と酷似してをります。

また、他の皇族方への批判等も同質であり、これらは全て皇室の尊厳性を貶むる意図によるものと思はれません。

皇室への不敬言動や批判は、皇室への尊厳性を貶むることにより、わが国民の皇室への敬愛心・崇敬心を低下喪失せしめ、究極において皇室を廃滅に至らしめんとする反日左翼勢力の策動です。しかも、こともあらうに、その策動に、保守派を自認するものの一部が同調するに至つては言語道断。《2段目へ》

《6頁末尾より》
を放棄したと受け取らせていただきます。法令遵守に関する質問への返信は結構ですが、最後に一点だけお伺いさせて下さい。

これまでに、二通お送りしました公開質問状にはご回答いただけませんでした。が、それぞれに返信用切手82円を同封しておりました。

これは朝日新聞社への寄付ということになるのでしょうか。・・・挨拶等略

《上段中央より》

今こそ、良識ある国民が反撃の声を挙ぐべき時機であります。小生もとり改憲論者ではありますが、貴会御趣旨に全面賛同いたすものであります。

なほ、皇后陛下にかかる尊称について、かつて小生がZINに対して呈出した質問状とその回答の写しを参考までにお送りいたします。御参照下されば幸甚に存じます。

北田

平成27年10月27日
ZIN放送センター

「風のニュース」係 御中
札幌市 北田 徹

ZINニュース放送に関する疑義について質問
時下、ZINの皆さまには益々「清栄の趣、大慶に存じます。」

さて、平成26年1月15日正午からの「お風のニュース」の内容に、下記の疑義がありますので、御多忙中恐縮ですが、これについて御教示願います。

「歌会始め」の報道において、天皇陛下の御製の紹介にあつては、アナウンスも字幕も「天皇陛下」とされていましたが、皇后陛下の御歌の紹介にあつてはアナウンスも字幕も「皇后さま」とされておりました。

私見では、皇后の尊称は皇后陛下とするのが正当と思料しますが、なぜ、皇后の尊称を「陛下」ではなく、一般敬称にすぎぬ「様」とされたのか、この理由についてご教示ください。

なお勝手ながら、「回答は書面により本年1月30日まで」をお願いいたします。平成26年1月20日

北田 徹様

いつもZINの番組をご視聴いただき誠にありがとうございます。このたび、皇室の敬称、につきましてご質問をお寄せいただきましたので、お答えいたします。

皇室への敬語につきましては、昭和22年に、宮内庁と報道機関との間で「これからは普通の言葉の範囲内で最上級の敬語を使う」ことで、基本的な了解が成立しています。また、昭和27年の国語審議会の「これからの敬語」という答申にも同様の考え方が盛り込まれ、これがマスコミの基本方針となって現在も続いています。

ただ、戦後半世紀を過ぎ、日本人の敬語に対する考え方が、皇室報道が大きく変化してきていることを踏まえ、ZINは皇室への敬語につきましては、できるだけ平易で簡潔であることを基本的な考え方として、親しみのある敬語を使用しています。

使用にあたっては、敬称も含めて、耳から入るメディアの特性を考慮し、耳障りでない、違和感のない表現になるように心がけています。具体的には、ニュースなどでは、皇族の方々への敬称は、原則として、「さま」を使っています。

天皇陛下については、日本国の象徴という立場から「天皇陛下」としており、天皇陛下と皇后さまを一度に紹介する場合は、「天皇皇后両陛下」としています。以上、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

ZINハートプラザ投書係り

お店に買い物に行った。そこは駐車禁止。店のおばさんに「車止めていい?」と聞く。「ダメ」と言ったら、車を停めていいの。良いわけがない。宮内庁が許可を出すこと自体が法破り。同様に国語審議会もおかしい。

米倉敏文さまより

二ニュースレター届きました。早速拝読させて頂きました。

不敬表記の質問に関する朝日新聞の回答が酷い一言に尽きます。天皇皇后陛下や他の皇族に直に取材や質問をする時は、失礼の無い様に十分注意し尊敬の念をもって正しい敬語で質問をしていると思います。それなのに両陛下や他の皇族の見えないところでは、取材した内容を記事にする時に正しい敬語を使わなかったり、酷い時は貶める表現を用いたりしています。本人のいないところでは、失礼な言葉で読者に拡散する行為は、人の生き方として恥ずかしい事だと思えます。不敬表記の正当性の屁理屈を考えるよりも人として恥ずかしい事をしている事に気付き回答して頂きたいと思えます。その後朝日より、一切回答がありません。

「この皇室を不敬にする昨今、義憤と憤慨が耐えぬ毎日となりつつあります。貴会の運営には賛同すべき点が多く感じられます。保守系の活動は知人によると長いらしく、個人名どころか貴兄なら住所氏名に電話番号も公開し、関東支部を開催できるのでないのかと風のうわさでつたわってきます。貴会の繁栄を願います、関東方面にも広がれば・・・」

藤田啓二(東京都)

「副代表の杉田謙一氏が熱心に活動を推進して居られる小旗作りや商店街に小旗を祝日に掲げる国旗掲揚運動に協力しています。一千数百年に亘り皇室を中心に育まれた美しい国柄の日本を私たちの時代で終わらせないように、一条の会の主旨に賛同し活動に協力致します。」

澤田史朗(愛知県)

事務局より

面白い本を見つけました!

小野代表が面白い本を見つけてきました。のらくろの文庫本なんですけど、これはあまり出回ってないはず。「カワイイ & 面白い」し素晴らしいですよ。

こういう本が書店に堂々と並び日が来れば、その時はもう、日本がまともな国になったと言えるのではないかなと思います。

聞くとところによればこの「のらくろ」軍隊に入隊し、初めは二等兵。そしてい



き最後は大尉くらいになるのかな。のらくろさんの階級がどのくらいの時愛読したかでその人の年が分かったようです。

天皇伝説

どこか醜い薄ら笑いを浮かべつつ考えたのではと思わせるこのタイトル。何だと思えますか?

実は平成 20 年にこんなタイトルの映画が、大阪ではたしか十三の第 0 劇場で上映されていました。

当時、これを目にした増木氏 (百人の会事務局長) は、この映画のポスターを剥がして回ったそうです。

ちなみにこの映画の監督は宣伝ポスターを街中に許可なく貼ったとして公安に逮捕されており、反天皇を掲げる活動として公安二課の捜査対象になっていったという情報が見つかりました。

先日、愛知県で一条の会副代表の杉田謙一氏を訪ねた際、この映画パンフレットが資料と



して保管されていました。目を覆いたくなるようなもので、最近はこのと同じようなものが、インターネットで映画のポスター以上に人目に触れやすい状態で野放しにされています。

ポスターのように剥がして回すことは出来ませんし、拡散力を考慮すると映画のポスター以上に深刻ではないでしょうか。非常に憤りを覚えます。

ホームページが新しくなりました・・・さらに進化中

一条の会は 10 月末から、ホームページのリニューアル作業にとりかかりました。当初、代表が見よう見まねで作成した会の公式サイトですが、ウェブサイト作成に関しては全くの素人ですので、読みやすさ情報を見つけやすいレイアウト作成はなかなか難しく、管理面でもわからないところだらけで、非常に不便を感じていました。

「皇室への不敬を糾弾するサイトを作り「皇室への不敬を糾弾するサイトを作りたい」と思い立ったのが平成 27 年 2 月。

活動資金の協力をお願い

まずは大雑把でも良いのでサイトを立ち上げ、そこから内容を充実させていこうと思ひ、文章を書いたり勉強会に参加したり、同時進行で制作を進めてきたのですが、会が発足してまもなく半年。そろそろ抜本的な改良を...と考え大幅にリニューアル、ロゴマークも作成しました。

今後さらに宣伝に力を入れ、政治に関心の高いいわゆる「保守派」の日本人が集う会として成長しつつ、日ごろ政治に関心のない人にも興味を持ってもらうための一助となりたいと願っています。ちなみに、弊会のロゴマークは金蓮花 (キンレンカ) をモチーフにしています。「愛国の花」という歌謡曲がありました。この金蓮花の花言葉は「愛国心」です。

★弊会の公式ウェブサイト、ロゴマーク作成に際して多大なアドバイス、ご指導を賜ったのは春名義之氏です。発信力を高めるには読みやすさ親しみやすさ等見た目も大変重要ですね。綺麗な洋服を着せて貰えてよかったです。皆様のご訪問をお待ちしております。

まずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。

このレポートにもありますように、日本の将来、子供達に輝く未来を約束するため、なによりも皇室を大事に思う運動を展開する任意団体です。ところが問題は活動資金。特別なスポンサーなどはなく寄付で賄っています。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

○ 寄附 (カンパ金) の主な使途

- ・ 活動の為に資料作成費・発送費
- ・ 交通費・通信費・備品購入費等

◇ 同封の郵便振替にてご協力ください。または郵便振替

00960-4-308709 憲法一条会